

情報共有

市民委員

中谷維志

多方面から情報収集し、街づくりを立案。

高野口町商工会

平家利也

皆に喜ばれる条例を目指したいです。

市民委員

福澤 稔

協働でよりよい街にしていきたいです。

橋本市家庭教育支援チーム

森田知世子

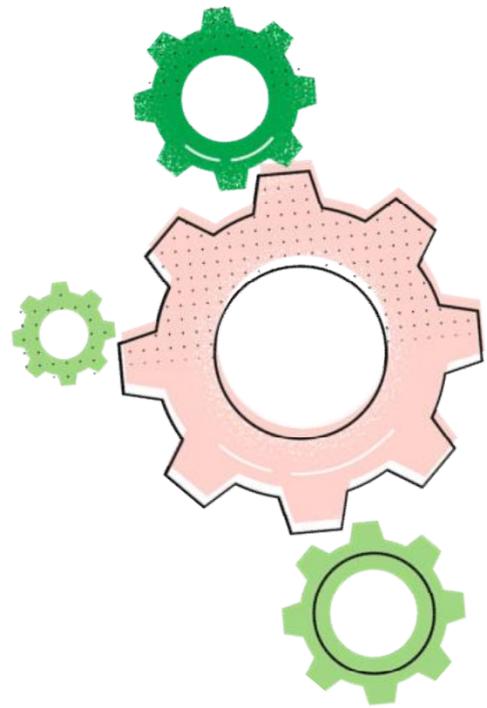
誰もが笑顔になれる街にしたいです。

和歌山県社会福祉士会

田村 亜美

情報発信だけでなく、共有まで。





情報共有

市民参画

協働のまちづくり

相互の尊重

第4条

私たちは、基本的人権尊重の下、次の各号に掲げる事項を基本原則としてまちづくりを推進します。



(1)

私たちは、市民参画や協働のまちづくりを進めるため、お互いに情報を発信し、共有し合います。

02

到達状況



協働実践の見える化

「はしもとプラチカ」が発足しました。「みんなでチャレンジ」講座を開催。幅広い年代の参加がありました。



こどもへの周知の機会

「橋っ子祭り」での「すごろく」の作成、「まなびの日」のブース出展、こどもパンフレット作成などを行いました。

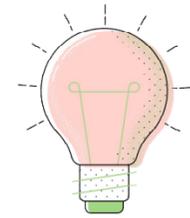


SNSの活用

橋本市公式のSNSがあります。公式LINEの利用者が15,000人を超えました。協働運営のInstagramも。

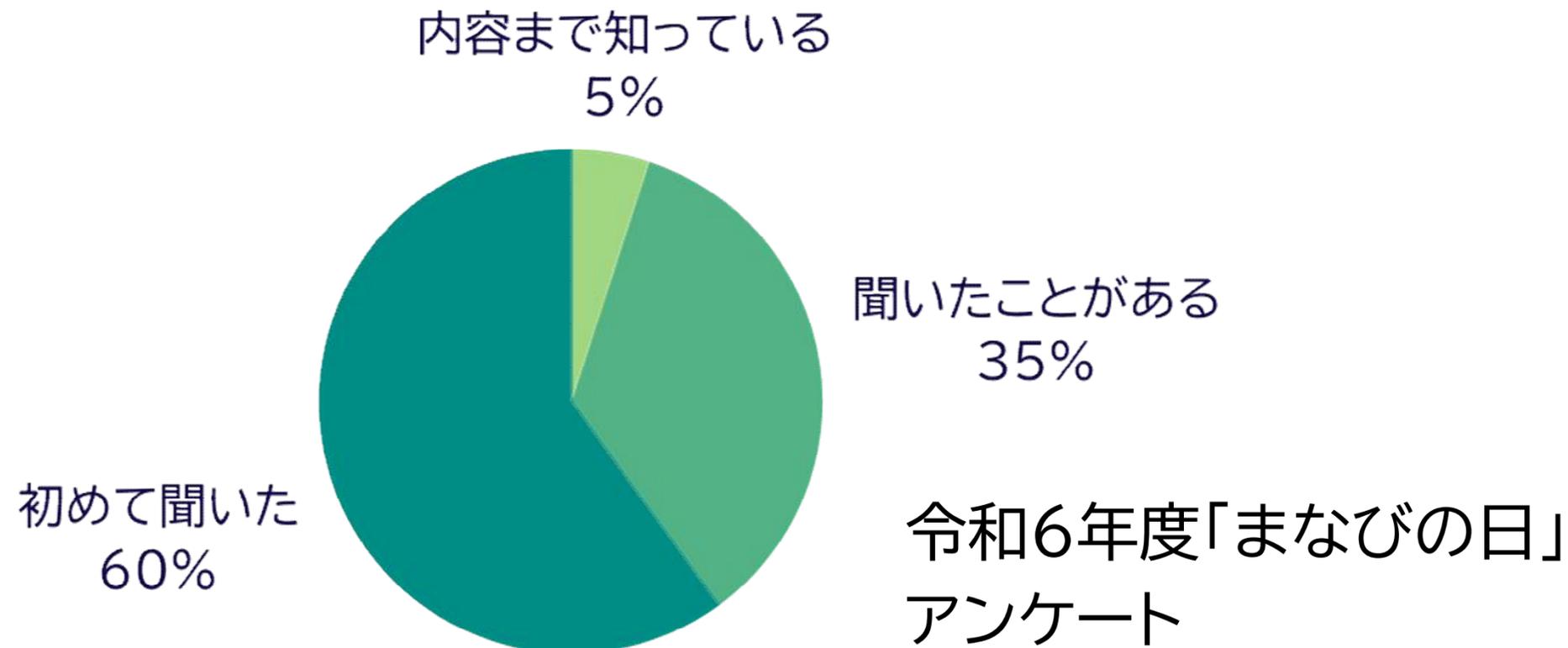
03

課題と提案 ～ 周知について ～



条例や協働の周知はまだまだ

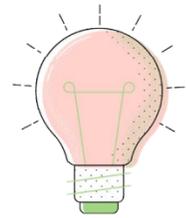
聞いたことがない人、聞いたことはあるが、実際の中身を知らない人、もいます。



引き続き、各種行事のブース参加、広報紙の特集記事掲載、サポーター交流会の実施等を継続します。

03

課題と提案 ～ SNSの活用について ～



公式LINEのさらなる活用

「協働」を切り口とした発信が、あまり多くありません。



公式LINEの支所を3階建てにして、「協働」のコンテンツを作ります。

03

課題と提案 ~ SNSの活用について ~



03

提案 ～ ヘスティアのInstagram投稿から ～

01

作成

担当者が、投稿内容(写真・文章)を作ります。

02

検討・決定

担当チームのグループLINEで、意見を聞きます。

03

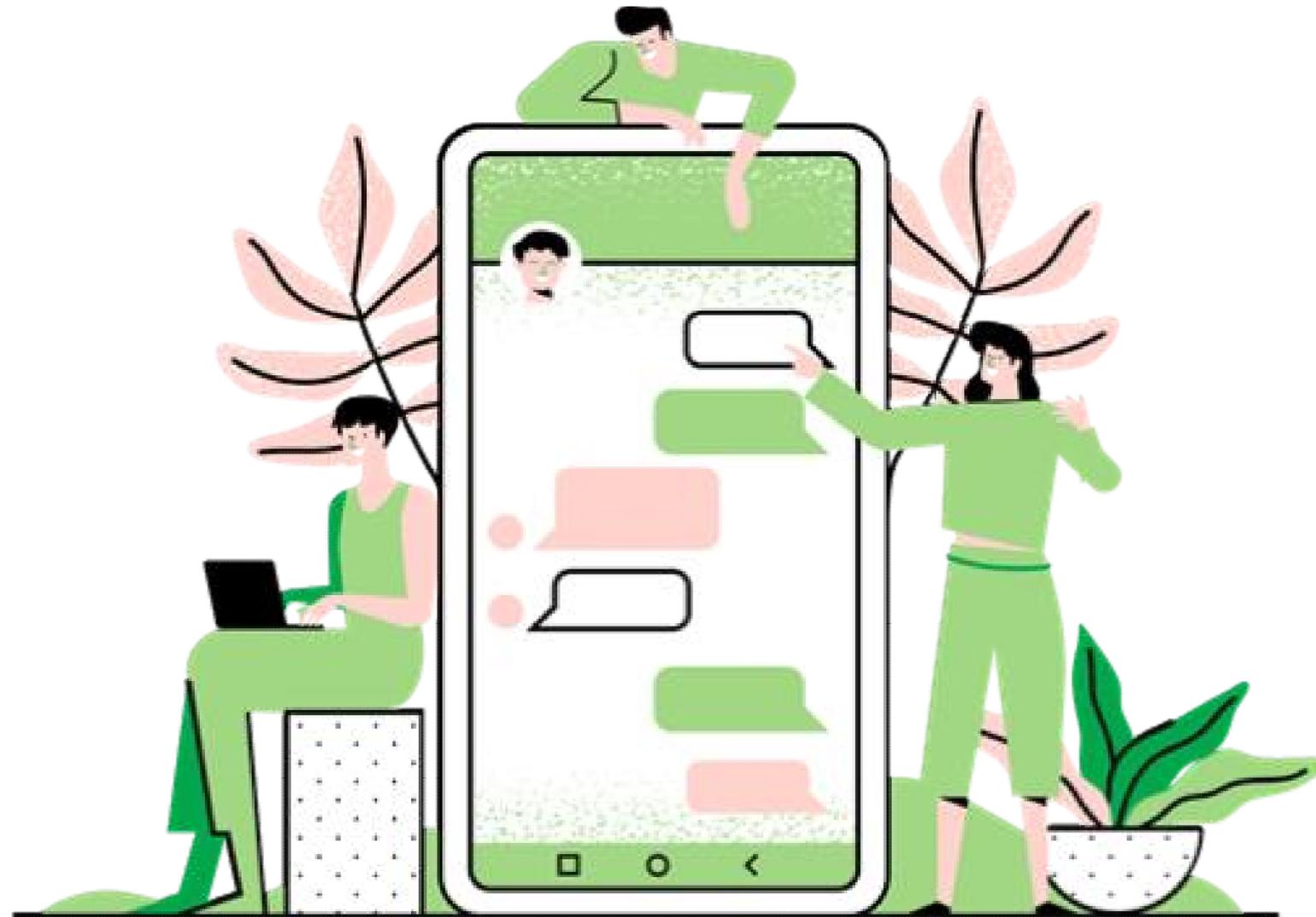
投稿

家庭教育支援室内で承認を得てから、担当の市役所職員が投稿します。



はぐくむ委員会・はぐくむサポーターも、同じような取組みが行えるのでは？

まとめ



情報共有は目的ではなく、協働してまちづくりを進めるための基本原則。

必要とされる情報を、わかりやすく効果的な方法で！

時代に合わせた柔軟な方法も取り入れながら、取り組みましょう。

市民参画グループ

こどもから大人まで楽しく学びながら市民参画の裾野を広げる

玉井 勝代

橋本市食生活
改善推進協議会

私たちの健康は私たちの
手でをスローガンに、
他にも自治と協働して
半世紀、これからも
橋本愛のためさらに
努力していきます！

前田 陽一郎

橋本商工会議所
常議員

橋本市内で建設業を営んで
います。
委員会参加者の努力により
幅広い世代の参加を促し、
それぞれの人に参画への
意識があることがわかり、
活動の成果が出ていると
実感するとともに、さらに
広がる可能性も感じました。

岩澤 晃臣

市民公募

橋本市が、子どもから
高齢者までずっと
住み続けられるよう、
もっと優しいまちに
なるように祈っています。

向 律子

市民公募

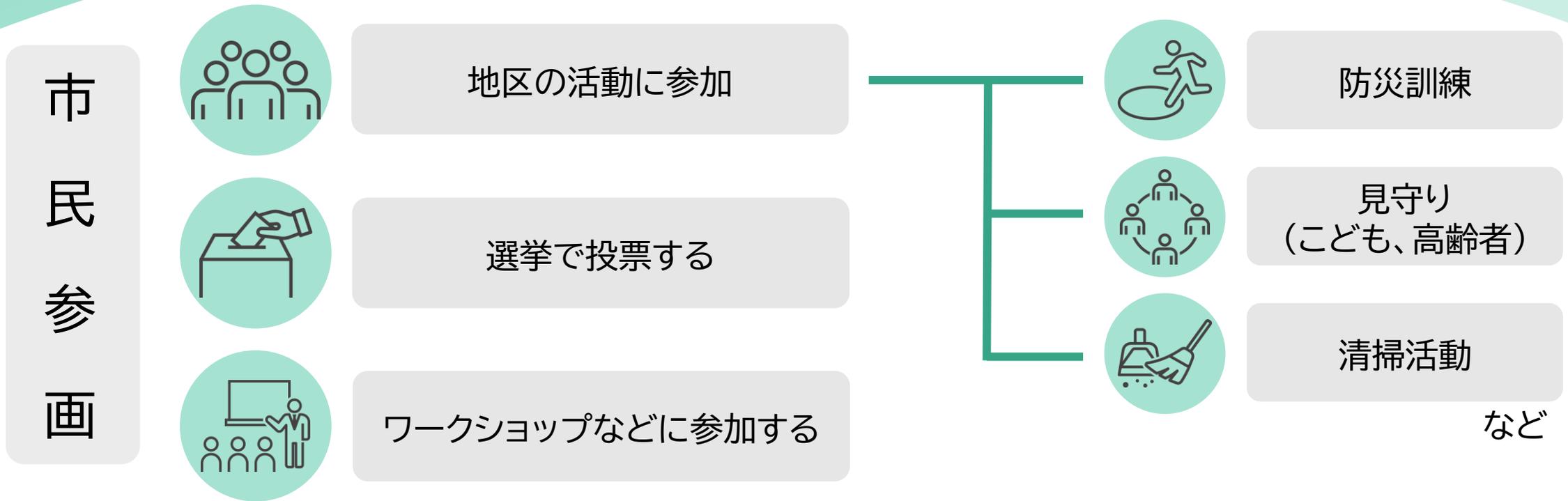
子育て中の主婦です。
橋本市は子どもたちの
ふるさととなる場所。
大切にしたいという
思いが年々大きく
なってきました。

戸島 浩子

市民公募

3人の子どもの母親です。
子どもたちが大きく
なった時、今よりももっと
楽しく安全に過ごしやすい
橋本市であるようにと願い、
活動しています。

自分たちが住んでいる「まち」ってどんなまち？ 興味をもって、自分にできることから始めましょう 一人ひとりの第一歩が、大きな力になります



はぐくむ条例 第4条

(2) 市民参画

市民は、まちづくりの主体として積極的にまちづくりに参画するよう努め、市はその参画のための機会を設けます。

第3期 実績



STAFF

すこやか橋本まなびの日

・市民ボランティアがスタッフとして参加



こどもパンフレット作成

・小学生にも身近なデータ使用



サポーター交流会

・サポーター同士や委員の情報交換、今している協働について情報提供



すごろく作成

・条例の周知活動としてすごろくを作成し、橋っ子祭りで来場者に配布
・協働や橋本市の名所などを盛り込み橋本市をアピールする



広報はしもと

・広報はしもとに掲載する、協働やはぐくむ委員会についての記事を作成

橋本市 現在・過去・未来



はしもとし じんこうすい
橋本市の人口推移



こうれいしゃ かず
高齢者の数はその
ままで、全体の
じんこう へ
人口が減っている
のね。



しょうがっこうべつじんこうこうせい
小学校区別人口構成

小学校区	人口	高齢者数	高齢化率	年少者数	少子化率	小学校区	人口	高齢者数	高齢化率	年少者数	少子化率
橋本小学校	5,724人	2,295人	40.1%	501人	8.8%	隔田小学校	5,932人	2,236人	37.7%	513人	8.6%
住本小学校	4,081人	1,872人	45.9%	247人	6.1%	あやの台小学校	2,653人	156人	5.9%	713人	26.9%
三石小学校	4,485人	1,214人	27.1%	518人	11.5%	恋野小学校	1,307人	547人	41.9%	92人	7.0%
紀見小学校	5,405人	1,406人	26.0%	750人	13.9%	学文路小学校	1,961人	798人	40.7%	132人	6.7%
城山小学校	6,127人	2,579人	42.1%	590人	9.6%	清水小学校	1,873人	735人	39.2%	159人	8.5%
境原小学校	2,124人	601人	28.3%	335人	15.8%	あづき小学校	7,481人	2,630人	35.2%	737人	9.9%
西部小学校	5,062人	1,759人	34.7%	427人	8.4%	高野口小学校	4,482人	1,767人	39.4%	407人	9.1%
						橋本市全体	58,697人	20,595人	35.1%	6,121人	10.4%

2025年2月28日時点 ※高齢者(65歳以上) 年少者(0歳~14歳)



あなたの小学校区の
高齢化率はどうか？

%



こども用パンフレット

小学校高学年向けに、こども用パンフレットを作成
橋本市の高齢化率や少子化率など、橋本市の現状と
これからの記載
身近なまちづくり、協働をなるべく簡単に
表現方法を工夫

行政と協働で作成

第3期 課題

まなびの日のサポーター増員を目指し、サポーターへの効果的な情報提供を増加する

サポーター
増員

条例の認知度はだんだんと上がってはきているが、さらに強化するために情報共有グループとの連携が必要

周知活動

課 題

楽しみながら学ぶツールのひとつとしてすごろくを利用し、学習につなげ活用へと生かす

すごろく
活用

子どもの頃から協働を理解を深めることができるように、こどもパンフレットの活用を推進する

こども
パンフレット
活用

第3期の課題を第4期につなげる

第4期への提案

まなびの日

まなびの日のスタッフ活動をサポーターに呼びかけ、条例を身近に感じるきっかけや協働の第一歩として次のステップにつなげる



こどもパンフレット

活用方法やその時の状況に合わせて変更していく箇所はないか検討し継続的に取り組む子どもの頃から協働を意識できるような取組みを続ける



サポーター交流会

サポーター交流会の開催は定期的に内容を検討し、参加者がより協働を理解し、楽しく情報交換できる交流の場となるようにする



すごろく

使用目的により内容を組み替え、楽しく学べるように活用を広げる



市民参画グループ まとめ



まなびの日のブース出展を継続し、サポーターへスタッフ活動の参加を呼びかける
協働のきっかけとなるような、参加しやすい環境をつくる



こどもパンフレットを活用する方法を検討し、協働について学習し、知識を得て理解を深める
自分のイメージした「まちづくり」を目指せるようにする



サポーター交流会は定期的に企画内容を検討して実施する
気軽に参加できる、ざっくばらんな場となり参加者同士や委員と交流し情報交換ができ、次の活動へつながる場づくり

わたしたちが住み続ける橋本市のこれからを、一人ひとりがしっかりと考え、議論を重ね、市民と行政が同じ方向を向き一歩ずつ行動できる、充実した市民参画を目指します。

協働のまちづくり

行政との協働進化、地域運営組織の組織化の促進



井西 三知子

ふれあサロン「なかんどワワワ」代表

「以和為貴」を根底に「和」の輪の中でサロン活動を楽しんでいます。



平田 敬二

市民公募委員
農業従事

白髪が似合う
深みある提案に
心掛けました。



佐藤 陽子

青少年育成市民会議
副会長

楽しくボランティアを
しながら人のつながり・
輪を大切に



岸田 昌章

市民公募委員
NPO代表

我らの街が
フレイルになる前に
「自治と協働」の
筋トレを！



芝 一與

市民公募委員
学校運営協議会代表

「箒」ボランティア
中箒一與です。
先人が残してくれた文化を伝え
ながら、優しさ溢れる街作りをし
て行きたいです

到達状況

1

市行政職員と はぐくむ委員との 協働研修の開催

(2回・年1回ずつ)

2年目は市2つの課、
はしもとプラチカの
3つの協働事例発表を実施



2

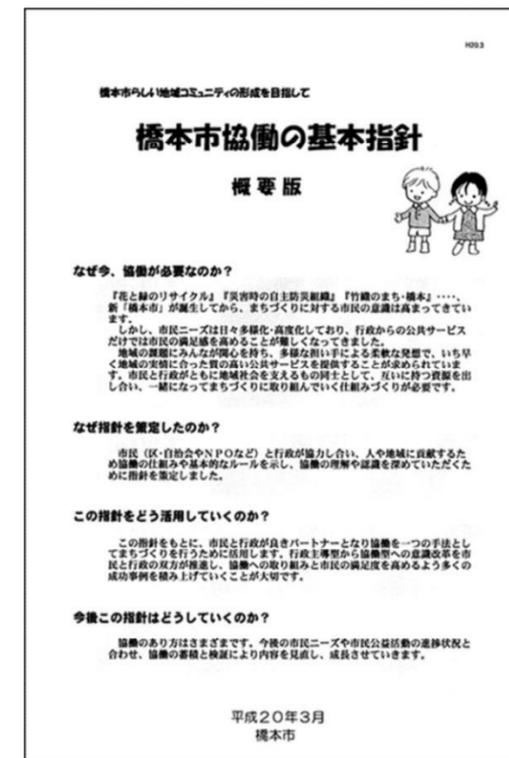
地域運営組織 検討懇話会 継続決定

モデル地区の選定
タウンミーティングの実施
委員も参加



3

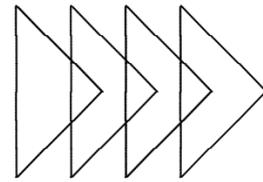
橋本市 協働の基本指針 改定作業への 合意



1 明らかにになった課題

市行政職員との協働研修の実施

- ・第2期1回 第3期2回 トータル3回実施
 - ・第3期2年目は
 - いきいき健康課 げんきらり～教室
 - まちづくり課 アダプト制度
 - はしもとプラチカ
- 3つの協働事例発表を実施



- ・情報共有の大切さを再認識
- ・協働について職員間の情報共有
- ・行政全体で共有する仕組みづくり

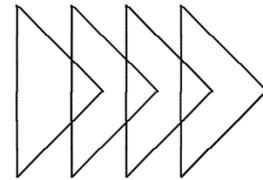
→ 成果と課題についてグループで討議を深める



2

明らかにになった課題

地域運営組織検討懇話会 継続決定



- ・モデル地区の選定
- ・タウンミーティングの実施(委員も参加)

条例 第10条 地域運営組織

市民は、一定のまとまりのある地域において、まちづくりに関わる組織として
地域運営組織を設立することができます。

地域運営組織とは、区・自治会といった地縁組織に加えて、自主防災組織や文化サークルなどの目的型組織、地域で活動する市民団体やNPO法人といった機能的組織も「参加・参画・協働」し、自分たちが理想とする地域を自分たちで考えて地域運営を行う仕組みのことです。

地域の身近な課題を解決するためには、各種団体が単独で活動していくよりも、地域全体で意見を出し合い、連携・協力して活動することによって、より地域住民の要望に的確に応えることが出来ると考えています。

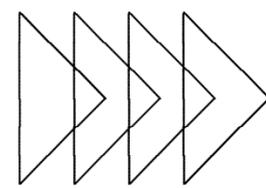
- ・地域課題を解決するマンパワー
- ・担い手不足を解消する人材育成
- ・懇話会との情報共有の機会



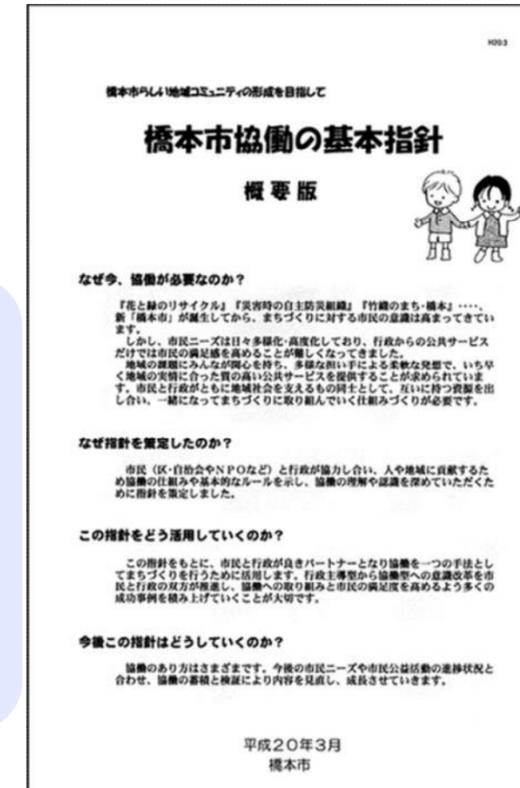
3

明らかにになった課題

橋本市協働の基本指針 改定作業への合意



- 具体的な協働の指針の必要性
- 周知



職員アンケート実施 第3期令和5年11月・令和6年10月

「橋本市の自治と協働をはぐくむ条例」
どの程度知っていますか？

平成20年策定「橋本市協働の基本指針」
どの程度知っていますか？

	令和5年度 (%)	令和6年度 (%)
名前も内容も知っている	31.2	29.6
名前だけは知っている	56.5	56.8
初めて聞いた	12.3	13.6

	令和5年度 (%)	令和6年度 (%)
名前も内容も知っている	17.7	19.6
名前だけは知っている	62.4	59.9
初めて聞いた	19.9	20.5

提案 市民と行政との コミュニケーション力アップ

市職員との連携

職員との協働研修の
更なる充実

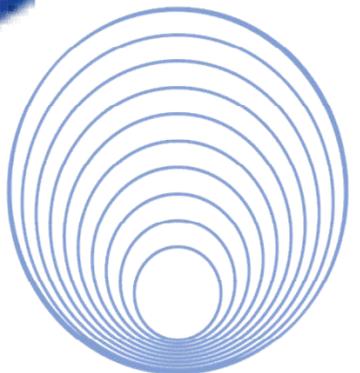
職員協働アンケート
の実施

橋本市協働の基本指針の
改訂を要請
委員も参画！



職員間の情報共有

情報共有の
仕組みづくり検討



提 案 身近な地域を豊かにする

地域運営組織検討
懇話会との連携

懇話会との情報共有の場

モデル地区への協力

地域運営組織設立
に向け

「協働のまちづくりパンフレット」
改訂版(地域版含む)作成

人材育成の勉強会、
システム構築等、協議

「自治と協働のまち・橋本」

私たち委員は市民と行政の懸け橋です。
市民と行政が共に協働の見識を深め、
市民が自主的に参画できる仕組みを広げます。

橋本市の歴史と豊かな地域資源をいかし、
自治と協働のまちづくりの実践に努めます。



明るく楽しく協働の実践を広げたい

はしもとプラチカ

Pratica

ポルトガル語「実践」



橋本市で協働の実践が
より広がるようにとの想いを込め
はしもとプラチカ！



「具体的な協働活動の見える化」

01

市長へ提言書提出（2年に一度）
第2期「報告交流会」を実施

具体的な協働活動の見える化
の重要性が議論されました。

02

協働を実践する団体が必要
と意見が一致

03

令和6年4月12日

市民 × 行政（地域振興室）

はしもとプラチカ発足



2023年3月開催

活動の目的



住み慣れた地域で子どもから高齢者まで
地域で支えあいながら
安心・安全な生活をおくれるまちを目指し

自治と協働の実践を広げる

はしもとプラチカは
市民が協働の第一歩を踏み出す
きっかけになれるよう活動しています。

構成メンバー 8名



- 会社員、学校教諭でありながら地域活動に熱心に取り組む者
- 橋本市家庭教育支援チーム代表
- 市民活動サポートセンター職員
- 公民館館長
- 地域振興室 2名 事務局
(8名うち2名ははぐくむ委員)



みんなでチャレンジ



地域の担い手である若者から幅広い世代を対象に
地域活動に興味がある人材の掘り起こし
気軽に集える場の提供
講座実施自体が市民と行政との協働

地域活動してみたいなあ

地域活動をする

仲間が欲しいなあ

橋本市を盛り上げたいなあ

橋本市で何かできないかなあ

協働ってなんだろう

なんだから楽しそう

おもしろそう

動機はさまざま
 ぜひご参加ください



はしもとプラチカ

「市民」×「行政」の協働団体



HASHIMOTO_PRATICA

令和6年度5回講座!

「みんなでチャレンジ」

通称みんチャレを開催します!

詳細はInstagramから



「はしもとプラチカ」は「協働のまちづくり」を進めるための団体です。地域活動に興味がある! 橋本市を盛り上げたい! 想いのある仲間に出会えるチャンスです。講座の参加お待ちしております。

第1回

5/25(土)
10時~
13時30分

地域活動の想いを聞こう

若者主体の清掃活動
 NPOクリーン&コネクト和歌山
 幸前青年代表

キャンプ飯を作って食べよう
 Orange キャンプ飯
 アウトドアショップ
 「Orange」キャンプ飯

定員 20人
 参加費 1,500円
 場所 紀北青少年の家

第2回

7/6(土)
13時30分~
15時

橋本の未来を考えてみよう

ハシログと考える
 橋本の未来

定員 100人
 参加費 無料
 場所 橋本市保健福祉センター

橋本市の魅力を発信する
 インスタグラマー
 「ハシログ」さんと
 橋本の未来を考えよう

第3回

9/28(土)
13時30分~
15時30分

地域活動の想いを聞こう

地域の居場所づくり
 第2層協働体 東美樹氏

コーヒーの淹れ方セミナー
 スターバックス
 サードプレイス (第三の居場所)
 スターバックスコーヒー

定員 20人
 参加費 3,000円
 場所 橋本市保健福祉センター

第4回

11月(土日)
時間未定

チャレンジしてみよう

コーヒーショップに
 チャレンジ

定員 20人
 参加費 無料
 場所 未定

コーヒーショップを
 開店

第5回

1/18(土)
時間未定

体感しようグリーンツーリズム

@秋津野ガルラン

鹿校の木造校舎を
 いかした都市と農村の
 交流施設

定員 20人
 参加費 3,000円
 (バス・昼食代含む)

場所 秋津野ガルラン
 バスで移動 (田辺市)
 ランチはスローフードバイキング!

各回、単発でも申込み可能です

講座の申込みは開催日の2週間前までに!
 ただし、定員に達し次第申込みを締め切ります
 各講座を受講された方へさんかくポイント200P
 全講座受講者には更に1,000P付与します
 ポイントの詳細は広報はしもと6月号を
 チェックしてください!

申込みはこちら↓



問合せ先 橋本市 地域振興室
 前川・上原 0736-33-7117

活動



令和6年度みんなチャレンジ 全5回開催

みんなチャレ
キックオフイベント 開催されました



準備会も開催しました



まなびの日 出展準備

紀の川橋本 SUMMERBALL2024



サマーボールボランティア

みんなチャレ 第2回講座
ハシログと考える橋本の未来
開催



みんなチャレ 第4回講座
コーヒーショップ出店に挑戦



2024年 みんなでチャレンジ 第5回講座



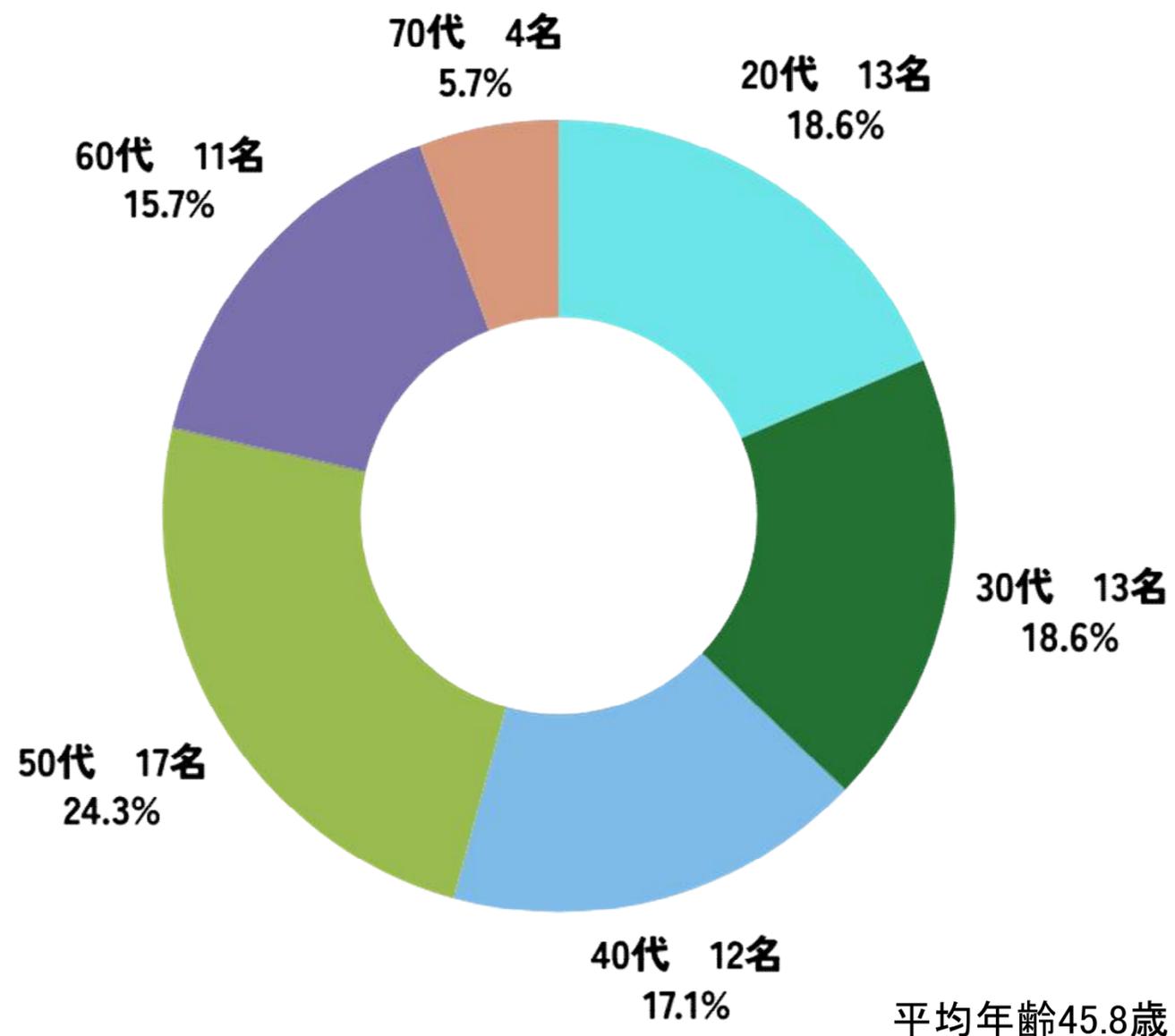
秋津野ガルテン



環境フェア出展

気軽に協働を語れる場

令和6年度みんなでチャレンジ
参加者 70名 延べ人数108名



成果 プラチカ

- ・こんなにも橋本市の未来を考えてくれる人がいることを、そして若者世代がいることを知ることができた。
- ・想いのある方々と交流、つながることができたことは大きな収穫。

成果 行政

- ・市民との協働により、今まで市の講座や事業に参加したことがない方にも受講してもらい、市に興味を持ってもらえる第一歩となった。
- ・市民のリアルな声を聞くことができた。

参加者

- ・新たな気づきや発見、情報交換の場。
- ・気軽にまちづくりに関わるきっかけづくりにつながった。



情報共有 連携



- ✓ 明るく楽しく
- ✓ みんなてチャレンジの継続
(全5回予定)
- ✓ つながり作り
- ✓ 企画を一緒に
- ✓ **参加から参画へ**
- ✓ 情報発信



自治と協働のまちづくり

はしもとプラチカ